

特集 "実験住宅 House-i"

今回のニュースレターでは、現在秋田市で現場が進行中の、実験住宅 House-iを紹介させていただきます。

昨今、地球温暖化・CO₂削減・化石燃料の高騰・地球規模の異常気象など、これらの言葉を目にしない日はありません。

中でもこれら全てにかかわるCO₂の削減は、人類に与えられた重要な課題です。建築分野は、CO₂の排出量削減の費用対効果が最も高い分野と言われていますが、住宅と関係する家庭部門や建築物と関係する業務部門ではいずれも増加傾向にあります。

当然、建築家もCO₂削減に有効な「エコ」や「省エネ」に関しては高い関心を持つべきであり、設計監理の現場の中で、取り始める事から実践していくべきです。

一方、個人的には、誰も異論を唱えることも無い「環境」とか「エコ」を声高に語るという行為も、やや気恥ずかしくもあり、様々な設計条件の中で、地味でもその時ができることから着実に取り入れて行きたいという姿勢です。

さて「環境を考慮した住宅」と言ったとき、それは様々なアプローチが考えられます。パッシブデザイン 断熱気密 自然素材・省エネ・リサイクル・長寿命など。

今回の実験住宅 House-iでは、クライアントのご希望もはや決意に近いものを感じました(が...)に基づき、主に4つの意欲的な試みを取り入れています。

- 1. 雪の有効利用 雪室の冷気による食品庫や個室の部分冷房
- 2. 温排水の有効利用 浴室排水からの回収熱による路面融雪
- 3. 雨水の有効利用 雨水のトイレや洗濯・散水への利用
- 4. ガスコージェネ ガス発電+排熱による給湯設備 です。

この中で、3と4はメーカーによりシステムが確立しており、確実に効果が見込まれますので設計事務所としてもそれほど大きな不安はありません。(ただし、雨水の利用に関しては、料金徴収の考え方が迫っていないと感じられ、今後の普及のためには制度上の優遇も必要になると感じています。冬季間、雨水が得られず、凍結に対する配慮が必要など、寒冷地ならではのハンディキャップもあります。)

問題は1と2です。これが実験住宅である所以です。「難儀してただ捨てるだけの雪を利用したい」、「エネルギーをかけて暖めた熱をただ捨てる」というごくあたりまえの発想からのスタートです。

効果については、前例もなく未知数で、正直言いまして「やってみないとわからない」という面が多いです。しかし、一度で結果は出ないかもしれませんが、継続的に改良を加えていくこととし、いずれは多くの住宅で普通に採用される設備になればよいと考えています。

クライアントの是非とも実施したいとの強い気持ちにお応えするべく、結果が出るのはまだ先ですが、施工上の欠点が出ないように監理を続けているところです。

- 1 北東より見る。敷地は住宅地の角地です。グレーの部分はガレージで、二段式駐車装置が入ります。
- 2 東より見る。エントランスは東側に。
- 3 南東からの鳥瞰。1階個室の縁側と2階バルコニー。
- 4 現場状況。角にあるグレーのドアが雪室入口。

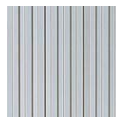


スタッフの日常・非日常 vol.02



皆さま、こんにちは。スタッフの渡部です。
7月吉日、はれ。先日、オープンしたての十和田市現代美術館に行ってきました。建もの探訪です。
設計者は、西沢リウウエ。世界的な建築家です。ひとつずつアートの入ったハコ。バラバラと建てていて、ガラスの回廊がつながっています。いわゆる「美術館」っぽくなく、とにかく開放的で、「美術館」なのに楽しい空間でした。
ハコに入ると、アートがもちろん主役。でもハコを出ると、庭や、他のハコの中のアートが同時に見え隠れして、ワクワクします。アート自体もすごく刺激的。現代アートです。
西沢さんは、本当は、「ハコ」そのものではなく、その「あいだ」をつくったのだな、と思いました。これから行く方は、ぜひその「あいだ」も楽しんでみてはいかがでしょうか。

今月のマテリアル



ガルバリウム鋼板サイディング
ガルスバンという断熱材をサンドイッチした外壁材です。House-iでは、ガレージの外壁に使用しています。リップのシャープな表情が魅力ですが、凹凸があるだけに、細部の納まりや他の部材との取合いは難しく、丁寧な施工が要求されます。



ラウン合板
いわゆるベニヤ板です。最もポピュラーな合板で、コンクリート型枠や住宅の押入れの棚や物入れの棚などに使われます。通称、居室の内装の仕上げとしては、もう少し肌理の細かいシナ合板を使用することが多いのですが、価格的な面や、ザラツとした多少荒い仕上がりが欲しい時はこちらです。House-iでは個室を除く内部壁仕上に使っています。

編集後記

皆さん、こんにちは。早くも1年の半分が過ぎてしまいましたが、今年の目標は達成されつつありますでしょうか？私の場合、まだまだ全然で、いつもながらの焦りも感じています。(笑) 今回のニュースレター、いかがでしたでしょうか？

右の写真、7月の加藤一成となっていますが、実際は6月の加藤一成です。ブログにも少し書きましたが、6月某日、太平山の山頂に行ってきました。太平山に登るのは35年ぶり位で、多少の不安はありましたが、初夏の緑の中、爽やかで楽しく登ることができました。(今登山にステッキ?を持つのは常識なんですね。そんな事知らずに素手で走りましたが、やっぱり下りがキツかったです。) 山、登りませんか？

実はこの登山、仕事の登山だったのですが、最強の現地調査ですね。(笑) 歩いて登るしかないですから、いずれプロジェクトをご紹介できることもあるかと思っています。次回もどうぞ楽しみに。



7月の加藤一成

NEWS



リフォーム倶楽部2008夏号です。

事務所としては初めての本格的マンションリフォーム事例の、Project 501が掲載されました。

『特集2 部屋別・部別 利便性に優れたリフォーム事例』で「回遊性のあるワンルームスタイル、通路には2方向から使える収納を」と紹介していただきました。

全国誌ですが、残念ながら秋田で見かけることはありません。

もし機会がございましたら、ご覧下さい。

ホームページ掲載はこちらです。

お知らせ

8月の無料相談のお知らせ。

レスデザイン加藤一成計画事務所では、毎月第一土曜日、建築や住宅に関する無料相談を承っています。

8月の無料相談日は、8月2日(土)です。

お一人(一組)様、1時間~1.5時間程度のお時間をお取り致します。

相談は無料ですので、お気軽にお申し込み下さい。原則として、当事務所にてご相談に応じます。

スケジュールの都合上、ご予約が必要ですので、メール、電話等でご予約下さい。

Web Site

- Home トップページ
- Profile プロフィール
- Concept コンセプト
- Service 業務案内
- Works 設計事例
- Conference 無料相談

ニュースレター
「建築家の日常・非日常」
発行責任者：加藤 一成

有限会社 加藤一成計画事務所

TEL. 018-831-4315
FAX. 018-831-4316
HP. http://www.lessdesign.jp
BLOG. http://issei-design.cocolog-nifty.com/
MAIL. issei-design@nifty.com